富山県立中央病院
やさしさ・信頼・安心

地域連携室だより

令和4年5月号
No.239

〒930-8550　富山市西長江2-2-78 | TEL 076 (424) 1531 | https://www.tch.pref.toyama.jp/

新緑の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力いただき感謝致します。
今月の掲載は、血液内科、外科、消化器内科です。

診療科の紹介　血液内科

血液内科スタッフ
後列左より　梶川医員、東医師
前列左より　山野医師、近藤部長、辻副医長

外来受診表

	月	火	水	木	金
初診				近藤	
再診	辻	近藤	梶川	辻	近藤
再診					梶川

◆診療体制

血液内科では、本年3月に中川温紀副医長、萩原剛志医師の他、長らく診療科代表を務めてきた奥村廣和部長が退職し、4月より新たに赴任した辻紀章副医長、内科専攻医2年目の東大貴医師の他、近藤恭夫部長、山野塁子医師、救急科所属の梶川清芽医員の計5名で外来･入院診療を行っています（写真）。初診外来は木曜の週1回ですが、再診外来を近藤部長、辻副医長、梶川医員が担当していますので、お困りの症例がありましたら初診日以外でもご相談ください（外来表）。

◆診療内容

昨年度、122例の新規患者さんをご紹介いただきました。造血器悪性腫瘍が110例と、入院診療は全身化学療法と造血幹細胞移植が主なものです。内訳ではリンパ腫が57例と最も多く、急性白血病17例、慢性白血病8例、多発性骨髄腫9例、骨髄異形成症候群が7例でした。造血幹細胞移植は、同種移植25例のうち血縁者間移植が6例、非血縁者間移殖が19例で、自家移植が5例でした。非造血器悪性腫瘍で主なものは、特発性血小板減少性紫斑病6例、再生不良性貧血2例で、後天性血友病も1例ありました。

◆症例提示

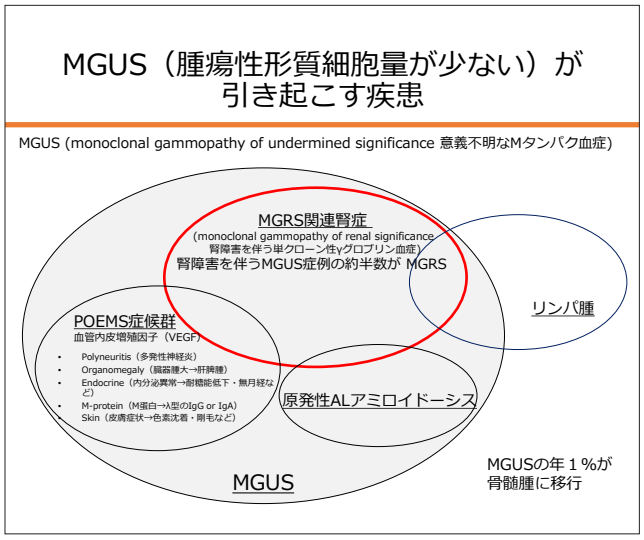
両下腿浮腫が増悪しM蛋白を指摘された80代女性

2年ほど前より両下腿浮腫を自覚されていた80代女性が、2ヶ月ほど前から浮腫が増悪したことから受診した医療機関で、尿定性検査　タンパク4+、κ型ベンス・ジョンーズ蛋白(BJP)を指摘され、当科を紹介受診されました。当科の検査にて、白血球数 5100/μl、ヘモグロビン濃度 11.7 g/dl、血小板数 18.7万/μl、血清総タンパク 5.9 g /dl、血清アルブミン 3.4 g/dl、BUN 22 mg/dl、クレアチニン 0.86mg/dl、IgG 1054 mg/dl、IgA 158 mg/dl、IgM 55 mg/dl、血中β2-マイクログロブリン (MG) 2.8 mg/l、フリーライトチェイン (FLC)κ 91.4 mg/dl、λ 24.6 mg/dl、κ/λ比 3.72、ΔFLC 66.8 mg/dl、血清免疫固定法 (IFE) 未検出、尿IFE BJP-κ検出、尿タンパク量 3.98 g/gCr、尿タンパク分画　アルブミン 65.0%、骨髄細胞中形質細胞比率 0.8%で、腹壁脂肪織生検ではアミロイド沈着が認められませんでした。

当科ではM蛋白陽性についてしばしばご相談をお受けします。M蛋白は腫瘍性、非腫瘍性に産生されますが、多発性骨髄腫が診断されない低腫瘍量の腫瘍性形質細胞を背景としたものを、意義不明な単クローン性ガンマグロブリン血症(MGUS; monoclonal gammopathy of undetermined significance)と言います。年1%の頻度でMGUSから多発性骨髄腫に移行しますが、多発性骨髄腫として治療を必要としない症例が多くを占めていることになります。一方で、MGUSには腎障害を合併し、末期腎不全や死亡に至る例があることが以前より認識されており、M蛋白が腎臓を障害するメカニズムも少しずつ明らかになっています。

M蛋白が関与する腎障害として代表的なものは、多発性骨髄腫に関連した円柱腎症で、遠位尿細管付近でTamm-Horsfall蛋白が結合し、円柱を形成することで尿細管を閉塞し、乏尿を来たします。M蛋白は糸球体で濾過され、多くは近位尿細管から再吸収されるため、微量のM蛋白は尿中で検出されませんが、M蛋白量が増えると再吸収が増えた近位尿細管や尿細管間質を障害するようになり、近位尿細管で再吸収されなかったM蛋白は遠位尿細管に流出して円柱が形成されやすくなり、尿中にも検出されるようになります。この様に、尿中に検出されない少量のM蛋白であっても腎臓を障害しています。また、M蛋白の量のみならずその質によっても腎障害の臨床像が異なります。円柱腎症のように尿細管間質が障害される場合は、GFRの低下が主体ですが、ALアミロイドーシスや単クローン性免疫グロブリン沈着症(monoclonal immunoglobulin deposition disease; MIDD)のように糸球体が主に障害される場合は蛋白尿が主体で、時にネフローゼ症候群を発症します。

2012年、腎障害を合併したMGUSの中で、M蛋白が強く腎病態に関与している疾患群に対して、MGRS(monoclonal gammopathy of renal significance)という概念が提唱されました。臓器障害がないMGUSとは差別化し、多発性骨髄腫同様に、M蛋白を産生する腫瘍性形質細胞を標的とした早期の治療介入を検討すべきとされています。現在は、MGRSの背景疾患としてMGUS以外に、治療を要さない成熟B細胞性腫瘍（MALTリンパ種、マクログロブリン血症、単クローン性B細胞リンパ球増加症など）を含めて、MGRS関連疾患という概念も提唱されています（図）。50歳以上の3%、70歳以上では5%でM蛋白が陽性とされますが、MRGSの頻度は、MGUSの1.5～6%で、腎障害を有するMGUSの半数がMGRSであるとの報告もあります。富山県内でも原因が特定されていない慢性腎臓病症例の中にMGRS関連疾患例があるかもしれません。



ご本人のご希望により腎生検を行なっていませんが、今回ご紹介頂いた症例は、BJP-κ型MGUSであったことから、MIDDによるMGRS関連腎疾患のために尿中アルブミンが増加し、両下腿浮腫が認められるようになったものと判断されました。

M蛋白は、血清FLC、血清蛋白気泳動、血清IFE、尿免疫IFEを確認することで98.1%検出可能です。M蛋白陽性例では、腫瘍量が少ないMGUSであってもMGRSのような疾患群も存在するため、定期的な血液検査ほかに、尿検査のフォローも必要になります。一般尿検査の注意点としては、尿中アルブミンを検知している定性検査では、BJPなどの非アルブミン尿は偽陰性になりやすいため、M蛋白症例では必ず尿定量検査を行う必要があります。また、尿蛋白分画を確認すると円柱腎症は診断がほぼ可能です。アルブミン尿の定量をすることでも、蛋白尿の主たる原因蛋白がアルブミンなのか免疫グロブリンなのかを判断できます。なお、尿細管間質マーカーであるβ2-MGは尿細管の再吸収能障害で高値となりやすく、近位尿細管の逸脱酵素であるNGAは、早期の器質的障害を反映するとされています。

診断にお困りの症例がありましたら是非ご相談ください。

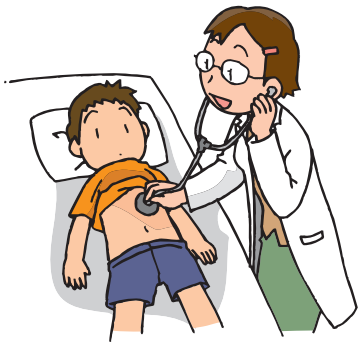
（文責：近藤恭夫）

転入医師紹介

診療科	医師名
腎臓・高血圧内科	牧石　祥平　医長
	清水　英子　医師
	山森　文敬　医師
循環器内科	堀　麗菜　医師
	江上　幸憲　医師
血液内科	辻　紀章　副医長
	東　大貴　医師
呼吸器内科	畦地　健司　医師
消化器内科	朝日向　良朗　医長
	高山　秀雄　医師
	竹村　直起　医師
	湊　友佑　医師
内分泌・代謝内科	吉澤　都　部長
リウマチ・和漢診療科	向井　公志　医師
精神科	石黒　幹也　医師
	兒玉　竜太朗　医師
脳神経内科	多田　康剛　副医長
小児科	宮下　健悟　部長
	作村　直人　副医長
	西山　真未　医師
	五十嵐　淳平　医師
	坂井　知英　医師

診療科	医師名
新生児科	二谷　武　部長
	伊奈　志帆美　部長
	東山　弘幸　部長
	嶋尾　綾子　医長
外科	羽田　匡宏　部長
	堀尾　浩晃　副医長
	上野　雄平　医師
	小川　隼一　医師
	寺田　南欧　医師
形成外科	竹村　朋子　医師
脳神経外科	野澤　孝徳　副医長
	水田　亮佑　医師
呼吸器外科	明元　佑司　医師
心臓血管外科	小尾　勇人　医長
	不破　光策　医師
産婦人科	小幡　武司　医長
	山口　彩華　医員
	森田　章嗣　医師
	曽根　香穂　医師
皮膚科	西尾　次郎　医師
泌尿器科	纐纈　佳樹　医員
	吉田　司　医師
耳鼻いんこう科	吉川　智美　副医長
	里見　佳保　医師
歯科口腔外科	河原田　壮史　医師
	内川　恵里　医師

診療科	医師名
放射線診断科	金谷　麻央　医員
放射線治療科	髙　将司　副医長
麻酔科	高野　慧　副医長
	古田　美奈子　副医長
	弘田　悠奈　医師
	福井　孝矢　医師
救命救急センター部	高寺　侑　医長
	海古井　大智　医員
	森　勇人　医師
集中治療部（集中治療科）	水田　志織　医師
	宮越　達也　医師

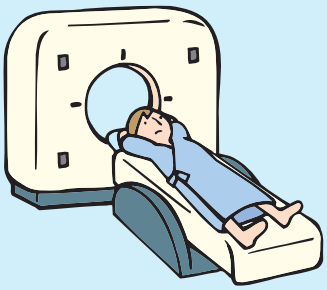


7月よりCTの台数が増えます

現在、CTは8件／日の予約枠で運用しており、予約は地域連携室への電話あるいは富山県地域医療連携システムを介してのオンライン予約となっています。

7月よりCTの台数が増えることで、予約枠には十分に余裕ができ、待ちがなく検査が可能になります。更に、初診当日の診察においてもCT検査は20枠を用意しておりますので、早期の治療に繋がります。是非ご利用下さい。

至急の検査が必要なときは、地域連携室あるいは放射線診断科にご連絡頂ければ、当日至急検査も対応可能ですので、お気軽にご連絡ください。



外科のご案内

診療科の3つのアピールポイント

1. 各臓器領域のがん疾患や良性疾患に対して毎年多くの手術を実施している
2. 各領域毎に専門医、指導医がいて、それぞれの疾病に対応が可能であり、教育機関としても機能可能である
3. 低侵襲とされる内視鏡外科手術を各臓器・疾病領域で多数取り組んでおり、さらにより安全性と根治性の高いロボット支援下手術への適応を拡大している

専門領域と治療内容の特徴

診療科の特徴

都道府県がん診療連携拠点病院として、がん診療特に手術を中心に取り組んでいます。がん診療（手術だけではなく薬物療法、放射線治療など）においては、診療ガイドラインに準じた標準治療を目指していますが、ときには個々の患者さんに応じた診療にも配慮しています。

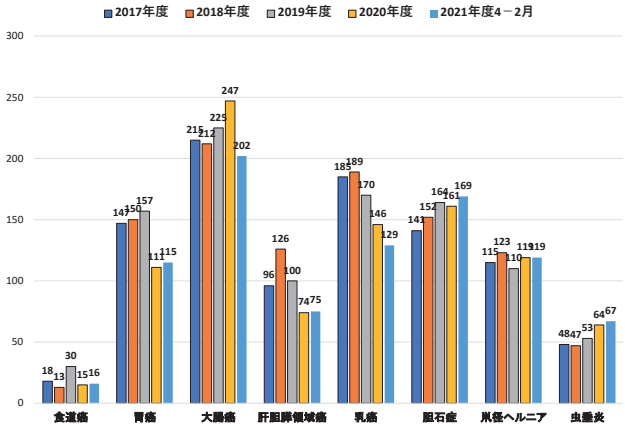
身体への負担が少ない低侵襲手術とされる内視鏡外科手術を各領域疾患に積極的に導入しています。さらに三次元視野下に関節を有する自由度の高い鉗子を用いて巧みな手術操作が可能でより安全性と根治性を高めたロボット支援下手術を2018年より胃癌、直腸癌から導入し、2021年4月からはより技術的に高度とされる食道癌、膵臓癌においても開始しました。各領域毎に専門医、指導医が配置され、患者さんへの高度で確実な技術を提供できることはもちろん、各領域の認定施設として若手、中堅医師やコメディカルの方への教育指導も十分に行える体制ができています。

がん診療以外にも良性疾患の手術なども数多く行っています。

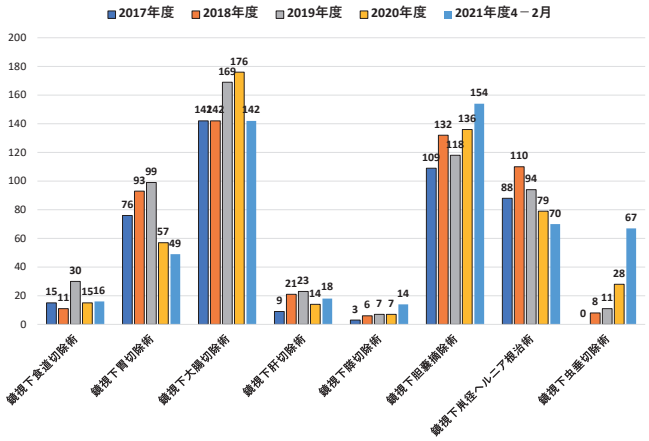
また、二次・三次救急医療機関として、急性腹症や腹部外傷などの外科的治療を必要とする緊急症例にも対応できる診療体制を整備しています。

3つの診療実績指標

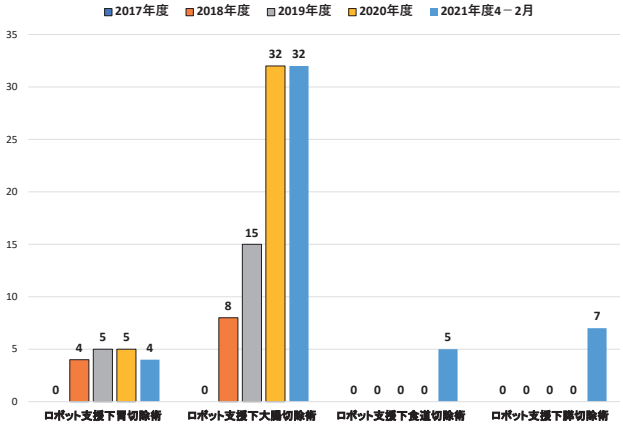
過去５年間の臓器毎の手術件数の推移



過去５年間の内視鏡外科手術件数の推移



過去５年間のロボット支援下手術件数の推移



外科 医師紹介

経験豊富なスタッフが
万全な体制で治療を
サポート

理事・部長
まえだ　きいち
前田　基一

【患者さんに向けた一言】
・できるだけわかりやすい説明に心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・乳癌診療、乳腺疾患全般
・乳腺疾患の画像診断が得意です
【専門医資格】
日本乳癌学会専門医・指導医、日本外科学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、乳がん検診超音波検査実施・判定認定医師

副院長・部長
医療安全部長
かじ　まさひで
加治　正英

【患者さんに向けた一言】
・病診連携を推進していきます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・上部消化管外科・内視鏡外科
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本胃癌学会代議員

部長
よしかわ　あけみ
吉川　朱実

【患者さんに向けた一言】
・わかりやすい説明と丁寧な医療に努めます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・乳癌疾患、乳腺疾患全般
【専門医資格】
日本乳癌学会専門医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医師、乳がん検診超音波検査実施・判定認定医師

部長
あまや　こうじ
天谷　公司

【患者さんに向けた一言】
・幅広い病状に迅速に対応します
【自身の専門性（手技他）アピール】
・肝胆膵外科、とくに低侵襲手術
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医

部長
はだ　まさひろ
羽田　匡宏

【患者さんに向けた一言】
・安全性に十分配慮して治療方針を提案するように心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・下部消化管疾患の外科治療
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、ストーマ認定医

医長
つかだ　ともや
柄田　智也

【患者さんに向けた一言】
・質の高い合併症の少ない手術を提供します
【自身の専門性（手技他）アピール】
・食道・胃の疾患を専門
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医・指導医、食道外科専門医、日本内視鏡外科技術認定医、日本胃癌学会代議員

医長
ひろせ　あつし
廣瀬　淳史

【患者さんに向けた一言】
・分かり易さと親しみやすさを心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・下部消化管疾患の外科治療
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本臨牀栄養代謝学会認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本ロボット外科学会専門医（国内Ｂ級）

医長
くらた　とおる
倉田　徹

【患者さんに向けた一言】
・患者さんの力になれるよう頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・肝胆膵手術、腹腔鏡手術、消化器一般
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本ロボット外科学会専門医（国内Ｂ級）

医長
すけがわ　けんた
祐川　健太

【患者さんに向けた一言】
・丁寧な診療をこころがけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器外科一般
【専門医資格】
日本外科学会専門医

副医長
きたの　ゆうと
北野　悠斗

【患者さんに向けた一言】
・丁寧な診察を心がけます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・胃癌手術、一般外科、急性期外科
【専門医資格】
日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

副医長
ほりお　ひろあき
堀尾　浩晃

【患者さんに向けた一言】
・患者さんに寄り添った診療を心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器外科一般、とくに肝胆膵領域
【専門医資格】
日本外科学会専門医

医師
あらき　たつひろ
荒木　達大

【患者さんに向けた一言】
・丁寧な診療を心がけます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器外科一般、救急医療

医師
おがわ　じゅんいち
小川　隼一

【患者さんに向けた一言】
・体力が続く限り、いろいろなことに一生懸命頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器外科一般、救急医療

医師
うえの　ゆうへい
上野　雄平

【患者さんに向けた一言】
・より良い医療を提供できるように頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器外科一般、救急医療

医員
てらだ　なお
寺田　南欧

【患者さんに向けた一言】
・より良い医療を提供できるように頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器一般

外来診療 担当表

	月	火	水	木	金
1診	天谷（肝胆膵）	加治（上部）	天谷（肝胆膵）	羽田（下部）	加治（上部）
2診	倉田（肝胆膵）	羽田（下部）	柄田（上部）	廣瀬（下部）	柄田（上部）
3診	前田（乳腺）	廣瀬（下部）	前田（乳腺）	倉田（肝胆膵）	前田（乳腺）
5診（乳腺初診）	吉川（乳腺）	吉川（乳腺）	吉川（乳腺）		
6診（外科初診）	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

※救急手伝い：
小川、上野、寺田
※外来６診担当：
祐川、北野、荒木、堀尾、
小川、上野、寺田

消化器内科のご案内

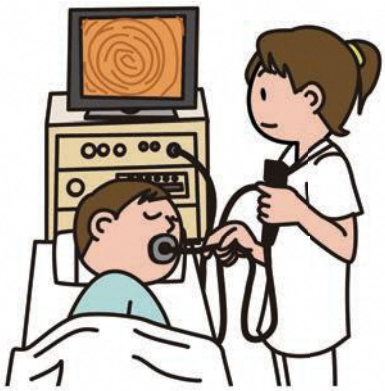
診療科の３つのアピールポイント

1. 消化器内視鏡診断・治療が北陸トップレベル
2. 検査を待たせません！北陸一の検査件数
3. がん診療連携拠点病院として外科・放射線・化学療法・緩和ケアと連携した消化器がん診療の充実

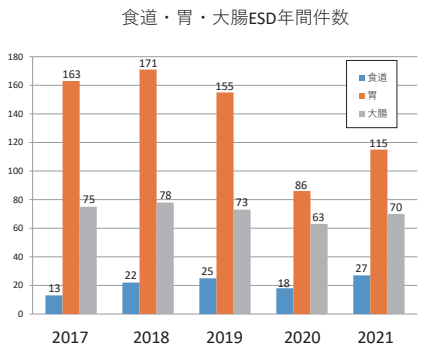
専門領域と治療内容の特徴

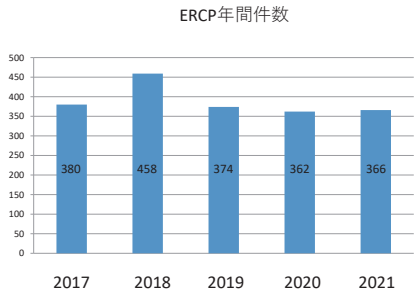
診療科の特徴

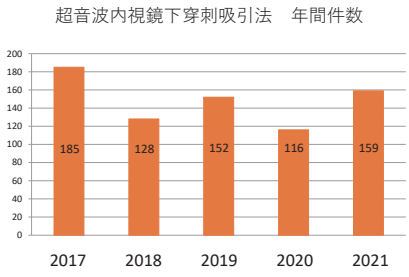
当院は都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、県内の約３分の１のがん症例の診療をしています。豊富な経験の元、専門医がお待たせせずに消化器がんの検査・治療を行います。診療はガイドラインに準拠しつつも、個々の患者さんに応じたテイラーメイド医療にも配慮しています。がんのみならず、肝硬変や炎症性腸疾患患者さんの相談体制も充実しています。



3つの診療実績指標







消化器内科　医師紹介

経験豊富なスタッフが万全な体制で治療をサポート

医療局長・部長

さかい　あきと
酒井　明人

【患者さんに向けた一言】
・わかりやすさを心がけています
【自身の専門性（手技他）アピール】
・あらゆる肝疾患の診療をします
【専門医資格】
日本肝臓学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

部長

まつだ　みのる
松田　充

【患者さんに向けた一言】
・最善の治療を提供します
【自身の専門性（手技他）アピール】
・胃がんの内視鏡治療は誰にも負けません
【専門医資格】
日本消化器病学会専門医・本部評議員、日本消化器内視鏡学会専門医・社団評議員

部長

まつだ　こういちろう
松田　耕一郎

【患者さんに向けた一言】
・クリエイティブな仕事をします
【自身の専門性（手技他）アピール】
・炎症性腸疾患の診療に長けています
【専門医資格】
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

医長

ありはら　ふみたか
在原　文教

【患者さんに向けた一言】
・大きな腫瘍でも内視鏡でとります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・大腸腫瘍の内視鏡切除
【専門医資格】
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

医長

あさひな　よしろう
朝日向　良朗

【患者さんに向けた一言】
・丁寧でやさしい内視鏡を心がけます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器がんの診療を頑張ります
【専門医資格】
日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

医師

たかやま　ひでお
高山　秀雄

【患者さんに向けた一言】
・頑張ります
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器一般

医師

たけむら　なおき
竹村　直起

【患者さんに向けた一言】
・より良い診療を心がけていきます
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器一般

医師

みなと　ゆうすけ
湊　友佑

【患者さんに向けた一言】
・よりそった医療をします
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器一般

医師

もり　ゆうと
森　勇人

【患者さんに向けた一言】
・地域に貢献します
【自身の専門性（手技他）アピール】
・消化器一般

外来診療担当表

	月	火	水	木	金
初診	在原	朝日向	酒井	松田（充）	松田（耕）/小川〈消腫瘍〉
再診 10	朝日向	在原	松田（耕）	松田（耕）	朝日向
再診 11	松田（充）	酒井	松田（充）	酒井	在原
再診 12	高木〈消腫瘍〉			小川〈消腫瘍〉	湊 / 森
再診 13	高山 / 竹村	小川〈消腫瘍〉	小川〈消腫瘍〉		
救急	湊	竹村	朝日向	森	高山

お知らせ

1 連携談話会・症例検討会のご案内

★…医療機関スタッフの方々の公開学習の場としています。お気軽にご参加ください。

6月開催予定

★第156回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和4年6月2日（木）18時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和4年6月9日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和4年6月13日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和4年6月16日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和4年6月24日（金）17時30分から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール
講 義：「インスリン治療の基本的考え方」
問題演習　：「糖尿病の食品交換表について」
事例から学び実践へ：「やってみようインスリン自己注射指導」

7月開催予定

★第157回 富山県立中央病院消化器キャンサーボード
日 時：令和4年7月7日（木）18時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

★中央病院病診連携談話会
日 時：令和4年7月11日（月）19時から
場 所：富山県立中央病院　5階ホール

富山県皮膚科病診連携症例検討会（二木会）
日 時：令和4年7月14日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

胸部レントゲンカンファレンス
日 時：令和4年7月21日（木）19時から
場 所：富山県立中央病院　中央病棟B 1階会議室

★糖尿病療養指導のための講習会
日 時：令和4年7月22日（金）17時30分から
場 所：富山県立中央病院　先端医療棟　会議室
講 義：「1型糖尿病の病態と治療」
問題演習　：「糖尿病合併症検査としての生理機能検査」
事例から学び実践へ：「糖尿病患者の歯周病指導の実際」

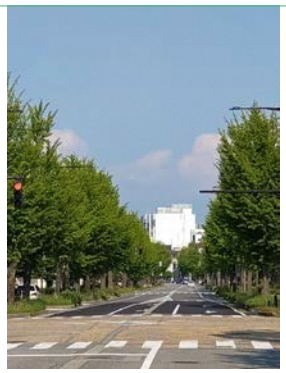
換気、手指消毒、ソーシャルディスタンス確保、環境整備を徹底して実施いたします。

2 6月の外来診療に関する医師不在日

科 名	医 師 名	不 在 日
消化器内科	酒井医師	2日(木)
循環器内科	音羽医師	14日(火)
	近田医師	9日(木)
整形外科	中村医師	27日（月）
	丸箸医師	15日(水)、17日(金)
	笹川医師	23日(木)、24日(金)
	香川医師	10日(金)
脳神経外科	青木医師	17日(金)
小児外科	岡田医師	3日(金)
産婦人科	谷村医師	17日(金)
眼科	山田医師	29日(水)
	西野医師	10日(金)
歯科口腔外科	小島歯科医師	8日(水)～10日(金)、27日(月)
	倉部歯科医師	10日(金)
放射線診断科	阿保医師	24日(金)
麻酔科	青山医師	17日(金)

※不在日につきましては、代わりの医師が対応いたします。

編集後記


護国神社前大通り

新緑のまぶしい季節になりました。今年の大型連休、各地へ足を運ばれた方も多かったのではないでしょうか。

私は、富山出身のフォトグラファー、イナガキヤストさんの写真展に行ってきました。知っているようで知らない、県内のビューポイントの数々。夕景の砺波散居村や溢れ出す水の力強さが魅力の魚津の円筒分水槽など、足を運んでみたくなるような景色が沢山ありました。

さて、先日、患者さんのご家族が、入国緩和に伴い、夏に海外の家族が帰って来ると笑顔で話されていました。私も三年ぶりに友人との再会です。厳しい国外情勢の終焉を願いながら、夏の到来を今から楽しみにしています。

（地域連携室　社会福祉士　山下　絵理子）

「地域連携室だより」の送付を希望されない場合は
下記までご連絡下さい。

富山県立中央病院
地域連携室
○代表電話　076（424）1531／内線3177
○予約専用　076（491）7160
○FAX　076（491）7109

がん診療に関する相談支援センター
ホームページアドレス　https://www.tch.pref.toyama.jp/
地域連携室（医療機関向け）電話076－424－1531／内線3177
メールアドレス　chiikirenkei@pref.toyama.lg.jp
医療相談室（患者・ご家族向け）電話076－424－1531／内線9130・9307
メールアドレス　kango@pref.toyama.lg.jp